

Alert 34号

反天皇制運動

[通巻 416 号]
2019年
4月9日発行

第2期・反天皇制運動連絡会

野次馬日誌*11 集会の真相*13 反天日誌*15 学習会報告*15 集会情報*15

太田昌国のみたび夢は夜ひらく (105)
——(壇壇天皇明) その31——天野恵一*10

マスコミじかけの天皇制 (33)
——(象徴天皇教) と元号制

太田昌国のみたび夢は夜ひらく (105)
——(國史が孕む文化的・歴史的歪みの克服を——改元騒ぎに思う——太田昌国)*9

反天ジャーナル (2)
状況批評 (3)
ネットワーク (4)
紹介 (7)
マスコミじかけの天皇制 (33)
——(象徴天皇教) と元号制

●「代替わり」本格スタートに対抗する「反天WEEK」へともに!! (2)
●「代替わり」大橋にやお子、イスラエル嫌い、映女 (3)
●宗教としての天皇制を考える (4)
●リニア説明会を開けJR東海の録画禁止に抗議 (2)
●「運動史とは何か——社会運動史研究1」大野光明・小杉亮子・松井隆志編 (7)

「反天連」の結成時点から、女性史の研究者として象徴天皇制を支える民衆意識の鋭い「内在批判」を持続し、私たちの運動の強力な理論的な助っ人であり続けた加納実紀代さんが78歳の生涯を終えられた。私たちと彼女との協力関係は、〈女性天皇制〉の評価をめぐる対立の局面を含めて、今日まで決して崩れることはなかった。2月22日の彼女の死の報告が、私たちに届いた時は、2月24日の「天皇在位30年記念式典」のマスコミ大騒ぎに抗する運動に私たちが忙しく動きまわっている最中であった。遠からぬ死を最後の著作の「あとがき」などで自分で公言していた彼女の死は、「悲しみ」はあっても「驚き」はなかった。

しかし、4月1日の高橋寿臣のサウナでの突然死の報告は、頭がまっ白になる「驚き」と「嘘だろ」という思いが、今でも続いている。彼は「反天連」結成時から、長く運動を共にし、同世代ということもあって、運動の中でのゴタゴタに対処しなければならない時の私の相談相手として唯一無二の、信頼できる友人であった。その関係は、彼が事務局の日常活動をリタイアしてしまっている今まで、続いてきた(最後に会った3月30日の「天皇『代替わり』直前! いまからでも"NO"と言おう」集会の後も、めんどくさい相談ごとについて助言を久しぶりに聞いたばかりであった)。

100歳近くまで生きた福富節男さんが、まだ90歳に入ったか入っていない年齢のころ、「この年になると親しかったいろんな友人も父母などの血縁関係者も、みな死んでしまい、ひどく寂しいもんだよ」と語った言葉が、私の耳に残っている。まだ、そんな年齢になっていたなかったその時の私は、「そんなもんだろうな」と思った程度であった。

高橋は70歳。わたしもすでに71歳である。今、その「寂しいもんだよ」という言葉が本当に強烈に身に染みる。

(天野恵一)



●定期購読をお願いします(送料共年間4000円)

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanten@ten-no.net>

●以前の情報はこちら▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

250円

今月の
Alert

「代替わり」本格スタートに対抗する 反天WEEKへ——ともに!!



号」を掲げる菅官房長官のしたり顔と、その新聞の翌日朝刊は、「教育欄」「生活欄」「文化・芸欄」と数字が並ぶだけの「金融欄」以外で、「元号」を見ないですむ欄はないという異様さであった。社会全体がこの情報を待っていたし、「新しい時代」を喜んでいふと言わんばかりである。少なくともそのように誘導する。しかし、それが空回りであることもメディアはよくわかつてゐるはずだ。

よく見れば、反対する声も記事になつてい

る。実際、反対する人は少なくない。世論調

査でも「元号離れ」は指摘されている。しか

し、すべてが決まつたあとに、どのように反

対の意見を紹介されても遅すぎるのだ。元号

反対の署名を始めた時も、国会への抗議行動

も、そして署名提出の時も、メディアはまつ

たくもつて無視を決め込んでいた。今さらで

も何でも、私たちの意見が表に出るのはいい

に違いない。だが、影響を及ぼすには時機を

逸し過ぎた記事づくりには、ほとほとイヤにな

なるばかりだ。

世論調査での「元号離れ」はすでに昨年か

ら指摘されていたし、非合理性や「国民生活への影響」も指摘されていた。しかし、やめようという言論づくりは見られない。遅すぎ

る時期を待たずに、それをやるわけにはいかない。そういう方針に貫かれているのだ。

「元号」は「中国古典からではなく国書か

判一面をドアップで占拠した。私が購読する新聞の翌日朝刊は、「教育欄」「生活欄」「文化・芸欄」と数字が並ぶだけの「金融欄」以外で、「元号」を見ないですむ欄はないという異様さであった。社会全体がこの情報を待っていたし、「新しい時代」を喜んでいふと言わんばかりである。少なくともそのように誘導する。しかし、それが空回りであることもメディアはよくわかつてゐるはずだ。

よく見れば、反対する声も記事になつてい

る。実際、反対する人は少なくない。世論調

査でも「元号離れ」は指摘されている。しか

し、すべてが決まつたあとに、どのように反

対の意見を紹介されても遅すぎるのだ。元号

反対の署名を始めた時も、国会への抗議行動

も、そして署名提出の時も、メディアはまつ

たくもつて無視を決め込んでいた。今さらで

も何でも、私たちの意見が表に出るのはいい

に違いない。だが、影響を及ぼすには時機を

逸し過ぎた記事づくりには、ほとほとイヤにな

るなるばかりだ。

世論調査での「元号離れ」はすでに昨年か

ら指摘されていたし、非合理性や「国民生活への影響」も指摘されていた。しかし、やめ

ようという言論づくりは見られない。遅すぎ

る時期を待たずに、それをやるわけにはいかない。そういう方針に貫かれているのだ。

「元号」は「中国古典からではなく国書か

ら」という保守派を代表する安倍の意向で、
「万葉集」から選ばれた。しかしその翌日には、その歌も中国古典が元になつてゐるとい
う専門家たちの「定説」が暴露されているし、
菅による新「元号」発表の直後に行つた安倍の記者会見についても、安倍が政治的すぎる
といった声がすでに週刊誌等では上がつて
いる。新「元号」の政令への署名が新天皇ではなく、現天皇がなす事への批判等々も。も
ともと、元号の発表時期をめぐつても、天皇退位・新天皇即位と絡まりつつ、「国民生活への影響」などまったく無視されながら、政府の手前勝手な紆余曲折を経て4月1日に決
まったのだった。ケチばかりがついている。

それでも「元号」をやめようという話にはならない。良い「元号」の発表時期、良い発表の仕方、良い「元号」の選び方や良い手続きに良い運用……。しかし、そんなものはあり得ないのだ。「元号」がダメなのだから。元号は非合理的である。しかし、それ以上に、思想信条の問題であり、歴史認識、基本的人権の問題なのだ。

なぜ、退任・就任ではなく退位・即位なのか。「代替わり」がなぜ辞令一枚ですまないのか。これらの一連の儀式が物語るが、宗教的な存在が国家機関となつてゐるからだ。そして、それが「公務員の「身分」ではない」という認識があるからだ。そのような制度に縛り付けられているこの国のあるようが、社会のセーフティネットよりもこのような制度に多額の税金を使うことを是とするのだ。

二月二二日、加納実紀代さんが、四月一日、

反天連の高橋寿臣さんが亡くなつた。お二人

からはたくさんのこと学んだ。高橋さんは、

この反「代替わり」闘争を私たちと共に走るつもりであつたはず。

4・27から始まる反天WEEK、気持ちは一緒に頑張るぞ。みなさまもぜひご参加を!!

● ジリ貧につき次号より自前印刷突入。長らく支えてくれた山猫印刷に感謝!! (桜井大子)

中島家の事情

進められる安保法制の実施

ハラック・クランズマン

日本のアイドル『サザエさん』。そのサザエさんはあまり知られていない描写や設定がある。アニメではなく漫画の方であるが。例えば「おい、コラ」と女性を呼び止めた警察官に、ケシカラソーとサザエが怒る等々（実は女性は警官の妻なのだが、それが分かった後も「妻に向かって何事か！」と、更にヒートアップ）。そしてもう一つ、切ない設定がある。それはカツオの親友・中島の家庭事情だ。彼はお祖父ちゃんと兄貴の3人暮らして両親が一切出でこない。その裏にはトンデモない事情があったのだ。実は中島の母は東京大空襲時に幼かった中島をかばつて亡くなり、父は南方で戦死。その後、祖父は兄弟を引き取り、現在に至る。という訳。連載開始は、敗戦からわずか8ヵ月後の1946年4月。戦争の記憶は勿論、「新しい女性」として描かれたのも当然といえる。それなのにサザエとフネが専業主婦という理由だけで、保守層から絶賛されている。そして5月には日野市の高幡不動尊でマスオさんの声優が「マスオさんが語る日本の家族」という講演会をやるのだと。流石、「皇室ファミリー」にも支持されているサザエ一家。寺がこんな日本会議みたいな企画をするのは、だからなのか――！

（大橋）やあす

だ。17年は2件だったが、18年には16件で訓練中だけでなく米軍が実際に運用している艦艇にも実施された。

シナイ半島への派遣は、司令部要員とは並べ、自衛隊による国連の枠組みでない米軍主導の多国籍軍への参加の先駆けとなる。MFOは「イスラエル、エジプト両軍の活動を監視している」とされているが、その実態は「エジプトやイスラエルの親歐米勢力を支え、アラブ諸国で噴出する反米闘争を抑え込むための『監視団』である」とも言われている。

安倍政権は4月2日、シナイ半島に展開する多国籍監視軍（MFO）に自衛官2人を派遣すると閣議決定をした。安保法制による実施である。

「自衛隊法第95条の2」による米軍の艦船や航空機に対する「武器等防護」活動が行われている。これは17年は2件だったが、18年には16件で訓練中だけでなく米軍が実際に運用している艦艇にも実施された。

シナイ半島への派遣は、司令部要員とは並べ、自衛隊による国連の枠組みでない米軍主導の多国籍軍への参加の先駆けとなる。MFOは「イスラエル、エジプト両軍の活動を監視している」とさ

れており、父は南方で戦死。その後、祖父は兄弟を引き取り、現在に至る。という訳。連載開始は、敗戦からわずか8ヵ月後の1946年4月。戦争の記憶は勿論、「新しい女性」として描かれたのも当然といえる。それなのにサザエとフネが専業主婦という理由だけで、保守層から絶賛されている。そして5月には日野市の高幡不動尊でマスオさんの声優が「マスオさんが語る日本の家族」という講演会をやるのだと。流石、「皇室ファミリー」にも支持されているサザエ一家。寺がこんな日本会議みたいな企画をするのは、だからなのか――！

反天シャーナル

（イスラエルは国連嫌い）

（映女）

今年の米アカデミー賞で、注目を集めたのが作品

は、とりあえずはそうした枠組みへの派遣自体が重要なのだろう。2名の自衛官が派遣されるシャルム・エル・シェイクは、「エジプトにおける第一の国際的ビーチリゾート地で、中東各国、ヨーロッパ各国からも多数の定期便、チャーター便が就航するなど世界的に人気が高い」ところだそう

だ。背景にブラックパワー全開の場面が出てきます。か

のアンジェラ・デーヴィスがモデルと思われる学生運動の指導者も出てきます。

不気味なのはKKKの入団式で流されるD.W.

グリフィス監督の映画「国民の創生」（1915）です。映画はKKKを活性化した。

最後に流されるのは、17年の南部での白人至上主義者のデモと混乱、プリンスの歌。

（映女）

状況

批評

思想・状況・批評

菱木政晴

(靖国合祀イヤですアジアネットワーク事務局)

宗教としての天皇制を考える

I 大嘗祭とは何か

目前に迫った天皇代替わりに際して改めて「宗教としての天皇制」が問題になっている。代替わりの中で国民主権原則違反や奉祝要請による思想・表現の自由の権利の侵害が問題になると並んで政教分離原則違反が頻発することが予想されるからである。

政教分離違反になることが明白なのはいずれにしても公費で運営されるいわゆる大嘗祭なのであるが、大嘗祭とはいつたま何であるのか。今度の代替わりに即してこのことを少し厳密に説明してみよう。

大嘗祭という宗教儀式についてこれについて反対する人の多くは「天皇が神になる儀式」と説明して（だから「けしからん」として）いるようだが、政府の説明では「新天皇が五穀豊穣と国民の安寧を先祖神に祈る儀式」ということになっている。大嘗祭とは、本来「新たに天皇となつた者が行う最初の新嘗祭」ということなので、大嘗祭を天皇が神になる儀式として何の根拠もなく説明した折口信夫を含めて通常の新嘗祭でもが天皇が神になる儀式だというような説は誰もとえないでの、私は政府説明が宗教学的には正しいと思つてゐる。新嘗祭は天皇家だけでなく古代豪族のほとんどが行つた農業儀礼であり、現在でも天皇家とは異なる出雲大社などで行なわれてゐる。それは「氏族・豪族の長が祭祀長となつて行う五穀豊穣と同族の安寧を祈る農業儀礼」なのであり、氏族の長が神になる儀式ではない。新天皇が即位しても前の天皇はたいてい生きているから靈が乗り移るなどと考へる必要はないし、それは今度の大嘗祭でもその時点で多分アキヒトは生きているからそうなるだろう。一世一元を採用した近代天皇制の儀式ならそういう「ヒトが神になる」という意味付けをしても悪いとは言えないが、それを本当ににぎにぎしく行つた大正天皇嘉仁が神になつたという宣伝はされていないし、「大正神宮」もない。顯密仏教の一部である伝統的神道においては怨靈以外は〈神〉にはならない。しかし、氏族の長は自身〈神〉ではないが、世襲であれ、長老たちの互選であれ、新たに就任した場合、必ず祭司長にならねばならない。天皇家においてもそうであり、長は直接に〈神〉となるわけではない。これは実は近代天皇制の中でも基本的に踏襲されておりいわゆる天皇の「人間宣言」と称される詔勅でも、否定されているのは現人神の観念だけで、（神の子孫としての）祭祀長の権限は否定されていない。

しかし、外見は神道に似てゐる（というよりは、神道施設とそつくりなものを使いながら内容が異なる）「国家神道」という新宗教は、農業呪術の一種である神道とは異なり「ヒトを〈神〉にする」教義を持つてゐる。すなわち、英靈顯彰である。英靈顯彰とはなにか。「英靈」という言葉の文字通りの意味は「すぐれた人の靈魂」だが、実際には戦死者にしか使わない。「顯彰」とは、「功績などを世間に知らせ、表彰する」と（広辞苑）であり、「功績」は「てがら」のこと、「表彰」は、「善行などを世に広く明らかにしほめること」である。したがつて、英靈顯彰とは、「戦争で死んだ人を、善行をした人として、ほめたたえ、広く世

きているから靈が乗り移るなどと考へる必要はないし、それは今度の大嘗祭でもその時点で多分アキヒトは生きているからそうなるだろう。一世一元を採用した近代天皇制の儀式ならそういう「ヒトが神になる」という意味付けをしても悪いとは言えないが、それを本当ににぎにぎしく行つた大正天皇嘉仁が神になつたという宣伝はされていないし、「大正神宮」もない。顯密仏教の一部である伝統的神道においては怨靈以外は〈神〉にはならない。しかし、氏族の長は自身〈神〉ではないが、世襲であれ、長老たちの互選であれ、新たに就任した場合、必ず祭司長にならねばならない。天皇家においてもそうであり、長は直接に〈神〉となるわけではない。これは実は近代天皇制の中でも基本的に踏襲されておりいわゆる天皇の「人間宣言」と称される詔勅でも、否定されているのは現人神の観念だけで、（神の子孫としての）祭祀長の権限は否定されていない。

界に知らせること」になる。このことをもつと簡単に言えば、戦死者に対する「死んでくれてありがとう、これからもあなたたちの後輩に対しても、つぎの戦争で死んでくれるための模範になつてください」ということである。この態度は、「あなたたちを戦争で死なせてしまつたことは本当に申し訳ないことだ、本当にごめんなさい、これからはもうこんなことはけつしてしません、あなたたちの後輩を戦争で死なせることはしません」というのとは大違いである。だから、国家神道において「神」になる人間は戦争や侵略に役立つて後に続いて戦争を担う者の模範とみなされる者、あるいは、模範と認定されていなければならぬ。空襲で死んだ一般市民は模範と認定しようがないから「神」と祀られることはないが、軍事行動の一環とされていた疎開児童や沖縄で集団強制死に遭遇した幼児も戦闘に貢献したという評価を「援護法」のからくりを通して)こじつけて「神」になることもある。国家神道が政治的に創出されれる以前、人が「神」になるのは怨靈に限られていたので、天皇もまた崇神のような怨靈めいたもの以外は神にならない。アマテラスは神であるが、降臨した孫のニニギは微妙としても、それから六代経た神武になると「ひと」とみなされているから墳墓や陵はねつ造されても、「神」に成つてはいないのでそれを祀る神社はなかつた。すなわち、神武を神と祀る橿原神宮は「國家神道」の中で形成されたのである。楠木正成の湊川神社もしかりである。明治天皇・睦仁^{むじん}は秀吉が成し遂げられなかつた朝鮮侵略の成就者であることを意識して秀吉の桃山城近くに陵を作らせ、東京に神宮ができた。秀吉もまた侵略の模範として明治になつてから神社(豊國神社)に祀られた。秀吉も睦仁もいすれも、戦争と侵略の模範として「神」になつたとみなすべきだろう。折口が神秘性を込めて説明した大嘗祭で「神」になつたはずの大正天皇嘉仁^{よしひと}の神宮はない。嘉仁はハングルを学び会話の練習もしたらしく、とても侵略の模範とは言えない男だった。しかし、彼は皇族の長^{おさ}として「国民(皇民)の安寧と

五穀豊穣を祈る」特別の資格はあつた。これはどういう意味を持つのだろう。

II 宗教としての天皇制

マキアベリ(1469—1527)は『君王論』で「君主たる者は、いかにも宗教心に満ちてゐるかのように、振舞わねばならない」と言う。その理由は、以下の如くである。

君主の統治は、もちろん、人による人の支配である。ところが、君主が神や仏に敬虔な態度をとる(よう見せかける)ことによつて、人びとはあたかも王国に暮らすすべてのものが神や仏の慈愛に守られているかのような錯覚に陥り、支配されることに感謝さえしてしまう。また、災いが生じたときも、それを天罰・天譴と受けとめる思考回路ができるれば、君主にとつてこれほどありがたいことはない。このような支配が可能であるためには、君主は率先して「祈る」あるいは「祈るふりをする」存在である必要があるが、本人が神として君臨してしまう必要はない。神として君臨してしまえば、失政は、「君臣ともに祈りが足りなかつた」では済まされなくなり、「神」の権威が落ちてしまうからである。「神」はなんだかよくわからないが畏敬の対象となつていることが大切なのであつて、生身の人間が「神」になつてしまふと、漠然と畏れ漠然と敬うという、宗教が人びとに影響を与える一番の力がむしろ失われてしまう。君主は、「率先して祈る」すなわち(祭祀長)であることが強みなのであつて、「神」になつてしまえば子供だましにしかならない。私は、日本の天皇制も本来こういうものだつたし、今も基本的にはこういうものだと思つてゐる。生身の人が神になる、つまり「現人神」という思想は近代の一時期にいびつに現れたこともあるが、それなりに生真面目な神道学者が本氣で唱えることはまずない。先に触れた天皇のいわゆる「人間

宣言」（新日本建設に関する詔書）も「天皇ヲ以テ現御神（アキツミカミ）トシ」は否定していても「朕ト爾等国民トノ間ノ紐帯ハ、終始相互ノ信頼ト敬愛トニ依リテ結バレ」ていることは否定していないのである。この否定していない部分こそが、天皇が「率先して祈る」資格を保証しているのである。天皇となつた豪族の内部でその〈祭司長〉就任争いは尽きなかつたし、他の豪族との争いも八世紀に到るまで激しかつた。けれど「終始相互ノ信頼ト敬愛トニ依リテ結バレ」ているわけではなかつたが、帝国憲法発布勅語ではこれを強引に「朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ」として、自分はアマテラスという〈神〉の子孫、なんじ爾臣民はアマテラスの家来のアマツコヤネ以下の〈神々〉の子孫として「終始相互ノ信頼ト敬愛トニ依リテ結バレ」していることにしたのである。この宗教としての根幹は「人間宣言」で何ら否定されていない。

凡そ宗教が信じられている、あるいは、もっと一般的な言い方をして、宗教が社会で機能しているとは、一般に、それによって統合機能（同調強要機能）と補償機能（感情の鍊金術）が働いてることとして觀察される。個々人の内面は、これを漠然と信じ、拒否を漠然と畏れているにすぎないのであって、今問題にしている国家神道における天壤無窮の神勅や紀元節の八紘一宇の詔勅を文字通り信じている者はほとんどいないと思われる。「漠然と」にならざるを得ないのは、超越的な「神勅」などを経験することが原理的に不可能だからであり、にもかかわらず、その「超越的なもの」「経験できないもの」と神秘的超能力や万世一系の血縁などによつて関われる特別の存在がある（これはかなり真剣に）信じられているからである。天皇だけがそうなのではない。祭祀を承継することになっている家長もまた、漠然と祭祀長だと信じられている。

でなければ、先祖祭祀などが今日においても完全に捨てられることのない理由を説明することができない。喪主と儀式の執行者なしで人の死を

処理することができないこと、天皇が「率先して祈る」存在であることを否定できないのは、この特別の存在とそうでない者の根本的差別が存在するからであり、それが宗教の危険性の本質である。

したがつて、このような宗教の危険を回避するには「一切の宗教的なものの完全な拒否」または「誰でも平等にかかわれる超越的なものの発見」の両者しかない。前者がいわゆる「絶対的無神論」後者がいわゆる「普遍宗教」である。どちらも現実的にはほとんど存在しないが、自覚的にそれをを目指すことはできる。宗教としての天皇制の拒否もこの二つの方法によるしかないと私は考えている。

私自身は、後者に属すると自覚しているが、後者の罷は普遍宗教と称するものが実際には帝国主義の宗教にすぎないということである。普遍宗教は、民族（の違い）を超えることになっているが、帝国主義も（支配的な民族がその他一切の）民族の違いを超えて支配するからである。

また、前者のいわゆる無神論者は、帝国主義的な普遍宗教の表面に顕れた教義には抵抗できるが、それが実際に働く所の漠然とした畏敬には無警戒であることが多い。天皇が神になるというようなばかばかしい教義には抵抗できても、象徴天皇に対する漠然とした畏敬もまた見逃してしまうことはないか。反天皇制を実効あるものにするため、互いに力を合わせていきたいものである。

リニア説明会を開け JR東海の録画禁止に抗議

宗像充（大鹿の十年先を変える会）

二〇一二年にリニア新幹線の工事現場予定地の南アルプス山麓、大鹿村を訪問した。度々登山の雑誌で進行状況を紹介したが、数年の間、リニア新幹線について継続的に取り組むジャーナリストは、ぼくともう一人しかいなかつた。

あれよあれよという間に環境影響評価の手続きがすみ、二〇一四年には国土交通省は着工を認可し、二〇一七年の開業予定で工事が始まつた。総工費は東京（品川）～名古屋間だけで五・五兆円。今世論を分断している辺野古の埋め立ての当初費用が二四〇〇億円だからその約三〇倍だと言えば、その規模と影響の大きさが想像できるだろうか。

もちろんゼネコン不正に至るまで、リニアの問題が世間に伝わらなかつたのには、ぼくたちの努力不足という以外に仕掛けもある。建設主体のJR東海は、アセスの過程で一ヵ所につき最低三回程度の説明会を沿線各地で行つてゐる。その後も着工前に工事説明会を開催する。杜撰な計画で当初なかつた工事の変更がなされても、実際はアセスの説明会はなく、都心部の予定地では地下四〇m以上の大深度のため、上に家があつても説明はない。

しかもこの説明会の仕方がひどい。

質問は三問までに制限し一度に行なう、再質問は許さない、決められた時間が来れば手を挙げてゐる

人がいても説明会を終える、借り受けた公共施設の入口に禁止事項を列挙した紙を貼り出す、関係者以外は出席させず住民が呼んだ人であつても会場に入れない、メディア以外の住民による撮影をさせない、わずか数枚の配布資料よりはるかに多い数十枚の画像が説明時に投影され、メモ代わりの画像の撮影すら禁止する……大鹿村の住民になつて頭に来るのが、会場に行かないと説明すらしないことだ。住民なのに情報の入手も制限付き。中部電力はアセスの資料を各戸配布するが、JR東海にやる気はない。

こういった「情報統制」に対し、メディアの録画は冒頭のみ。各自治体の連絡協議会などはメディアには非公開なところが多い。それで住民が疑問をぶつけたり、場が荒れたりしても、終了後にJR東海の部長がメディアの聞き取材に、「理解が深まつた」と回答して工事が進む。言つても聞いてもらえないし、言つたところでメディアは伝えないとなつて住民の孤立感は大きく、しんどさは解消されない。

その上、リニアの実情を記者として伝えると、「ご説明」と称してJR東海の広報が雑誌の編集部に押しかけ、「一方的」と何度も編集部とのやり取りを求める。音を上げて雑誌がリニア問題を取りあげなくなる。こうやって原発同様「安全神話」が維持されてきた。しかし、大手の記者たちに「報道の自由」

を守ろうとする緊張感はない。住民が会場で「そもそもリニアは必要なのか」と問うと、「それをここで聞かないでください」とJRの担当者が答える。しかし、そんな問い合わせどこでも議論されてこなかつた。国家的なプロジェクトである以上、地域の問題を地域だけが背負うのは荷が重い。

そんなわけで、住民団体個人、それにジャーナリストに一月の大鹿村での説明会を前に緊急に呼びかけ、共同声明として発表し、関係自治体や記者クラブに申し入れた。最終的に三四団体、六三個人が賛同してくれた。大鹿村の説明会では、住民としてぼくが公開の仕方に冒頭異議を唱え、フリーランスの記者を中心に、いつしょに抗議してくれた。

こういった措置を大鹿村もJR東海も、「出席者の自由な発言を妨げるため」という理由で正当化している。そこで取材を控える時間枠やコーナーを用意したり、発言者が録画の諾否を発言できることを司会が冒頭アナウンスしたりするよう事前に主催者に提案したが、村もJRも拒否した。もともとそれが目論ではないからだ。そもそも冒頭録画しているので途中の録画を禁じても意味がない。実際、静岡の専門家による委員会は、静岡県の措置で全部公開している。こういったやり取りが公開でなされたこと自体、反撃の意味があつた。

とはいえ、当日録画禁止の措置を解除できたわけではない。それでも今回の取り組みで得られた賛同の輪は価値がある。住民もジャーナリストもどちらも、問題を広く知つてもらい、多くの人を議論に引きずり込む意志がなければ、現状は打破できないからだ。説明会は今後もあるだろう。より多くの人の賛同を得られるようこの取り組みを持続したい。

『運動史とは何か—社会運動史研究1』 大野光明・小杉亮子・松井隆志編

小杉亮子 (社会学)



過去にあった社会運動の実践、思想、系譜を掘り起こし、検証し、記録を残す。『社会運動史研究』は、そうした運動史研究のためのメディアとして、今年二月に新しく立ち上げられた。本書はその第一巻であり、特集「運動史とは何か」と社会運動史関連書籍の書評が掲載されている。『社会運動史研究』の発起人三人は、社会学をおもな専門とする、若手の研究者である。大野光明は、沖縄闘争や反戦・反基地運動の研究者であり、京都で反基地運動を担つてもいる。わたし（小杉亮子）は六〇年代の大学闘争をテーマとしてきた。松井隆志は、六〇年安保闘争やベ平連など六〇年代の社会運動と思想の研究者である。

なぜいま、このメディアを立ち上げたのか。背景には、近年の社会運動への関心の高まりと、その裏側で過去の運動にたいする平板な歴史化が進むことへの危機感がある。二〇一一年以降の反原発・脱原発運動、二〇一三年ごろからのヘイトスピーチにたいするカウンター行動、二〇一五年の

安保法制反対運動など、二〇一〇年代になつて、日本の社会運動に新しい動きが起きていくと、メディアや研究者が共感的に注目するようになつた。

オキュパイ運動や #Me Too 運動など、海外の社会運動の動向や、日本の社会運動との影響関係にも関心が寄せられている。

ここで、近年の運動に意義ある新しさがあることを否定したいのでは、もちろんない。問題化し

皮切りとなる第一巻では、「そもそも社会運動史とは何か」を問おうと、特集「運動史とは何か」を掲載した。内容は、発起人三人による、それぞれにとつての社会運動史研究の方法と枠組みを論じた論考や、社会運動史研究のメディアの「先輩」である『運動史研究』（一九七八～一九八六年）について「運動史研究会」の事務局を担つた伊藤晃さんに寄せていただいた文章などである。

究してきた大学闘争についていえば、二〇一五年の安保法制反対運動のころはとくに、六〇年代の学生運動に「暴力的」「非合理的」といったイメージを貼り付け、この貧しいイメージと対比させながら、安保法制反対運動の先進性や、そこに参加する若者たちの行動や言葉が持つ新しさを強調する言説が流通した。この流れに抗するために、これまでの運動史研究の蓄積を再訪しながら、過去の社会運動についての調査・研究をおこない、それを共有する場が必要だと考えた。

本書冒頭の「なぜ私たちは『社会運動史研究』かでできているのではないか」とやや自画自賛的ではあるが、思う。

発起人三人は、いま社会運動史の媒体が必要だという点では一致しているものの、「社会運動とは何か」という社会運動像も、社会運動史にたいする立場も異なる。このことは発起人三人だけなく、本書に登場してもらつた全ての人にも、多かれ少なかれ当てはまるだろう。社会運動史の多面的な意味やありかたが、本書をとおして浮かび上がりつづけて、ちつてはまな、いや、ちゃんと自説的

両者が相互参照し混じり合う場にしたい。このめざすところに、発起人三人だけで到達できるとは、もちろん考えていない。さまざまひとと一緒に運動史の作業を担い、議論を深め、このメディアを育てていくことができたらと考えている。

「犬も食わない」改元騒ぎが続いた数日間、新聞・ラジオ・テレビ報道を読んだり見聞きしたりすることをほぼ絶つた。それらに接したとて、偏狭なナショナリズムの毒がわが身に回ることはないくらいの確信はあるが、「生理的に耐え難い水準で騒動が続いていたからである。こんな時は「一億人から離れて」立っていたいと思った。最小限の情報だけは吸収しながらも。

いま去り行こうとしている天皇は、およそ三年前に「生前退位」の意向表明を行なった。天皇の意を体した宮内庁長官が、内閣府には無断でNHKテレビを通じて天皇のビデオ・メッセージを流すよう画策した。去る三月二三日放映されたNHKの特番「天皇運命の物語 第3話 象徴果てなき道」における元宮内庁参与で、日本政治外交史専攻の三谷太一郎の証言によれば、天皇は二〇一〇年七月三二日の参与会議で「八〇歳までは象徴の務めを果たすが、その後は皇太子に譲位したい」と発言したという。三谷はこの発言に衝撃をうけて、「憲法が直面した最大の問題だと捉えた（同氏は、同じ趣旨のことを、三月二九日付朝日新聞掲載のインタビューでも語っている）。憲法も皇室典範も想定していない「生前退位」の意向を天皇自身が示すことが明白な憲法違反に他ならないことを察知してこそ、三谷の衝撃であつたろう。メディアの改元騒ぎは、「生前退位」宣言が改めて露出させた、象徴天皇制を規定した憲法が根本的に孕むこの矛盾に目を向けることなく、昨今

「犬も食わない」改元騒ぎが続いた数日間、新聞・ラジオ・テレビ報道を読んだり見聞きしたりすることをほぼ絶つた。それらに接したとて、偏狭なナショナリズムの毒がわが身に回ることはなくくらいの確信はあるが、「生理的に耐え難い水準で騒動が続いていたからである。こんな時は「一億人から離れて」立っていたいと思った。最小限の情報だけは吸収しながらも。

一国史が孕む文化的・歴史的歪みの克服を——改元騒ぎに思つ

太田昌國の夢は夜ひらく 106

みたび



首相の「主導性」なるものは、新たな元号が從来とは異なり、漢籍に依らず「日本由来」の国書、しかも「日本最古の歌集」万葉集に典拠を有する点で発揮されたとされてゐる。「国民文化」「四季折々の美しい自然」「国柄」などの言葉が鎌められた首相談話は、多文化主義や多様性の尊重の精神から遠く離れた排外主義的なナショナリズムに溢れています。

私はこの改元騒動を脇に見ながら、いくつかの読書をしました。いずれも再読である。多くの方がそんな風にして過ごされたと思うが、さまざまな例が共有化されることが望ましいと思う。

藤間生大は、マルクス主義の立場に立つ古代史家として

一九五〇年代から六〇年代にかけて旺盛な執筆活動をした人物である。『埋もれた金印・女王卑弥呼と日本の黎明』『倭の五王』などの著作が記憶に残っている。昨年末、藤間の訃報に接したこともあって（享年一〇五）、改元騒動のさなかに、彼の仕事の一つを思い出した。『東アジア世界の形成』（春秋社、一九六六年）である。コミニフォルムによる日本共産党批判や中ソ論争を契機にして民族問題を重要視する地点へ歩み出た藤間は、從来の一国史觀を超えて、朝鮮・中国などを含めた東アジア地域総体の、古代から近世にかけての歴史的過程を描く試みを本書で行なっている。当然にも、そこでは「日本史」は相対化され、自民族中心主義から離脱するための、六〇年代にあつては意義深い仕事の一つであつた。

在日朝鮮人歴史研究者、金靜美が一九八九年に書いた「東アジアにおける王制の廃絶について」（『民濤』七号、一九八九年六月）という文章も熟読に値する。「二〇世紀のはじめ、東アジア地域には四人の国王がいた」に始まる一節は示唆的だ。一九一年、中国民衆は辛亥革命によって二千百余年続いた王制を打倒した。一九一七年、ロシア民衆はロシア革命を通して、三〇〇年近く続いたロマノフ王朝を打倒した。朝鮮民衆は王制支配の弱点を衝かれて日本帝国による植民地支配を強いられたが、三一独立運動などの日帝支配に対する抵抗・独立闘争の過程で実質的に王制を廃絶した。しかるに、日本の民衆は？ と金論文は問うのである。胸に迫る問いかけである。

かつてフランス共産党史など欧州左翼の研究者であつた海原峻が、二〇世紀末以降行なつてゐる『ヨーロッパがみた日本・アジア・アフリカ』（梨の木舎、一九九八年）などの一連の著作も興味深い。ここでは、東アジアを超えて、世界史に密接に関連した事象が語られるからである。改元騒ぎを、一国史が本質的に孕む、文化的・歴史的な歪みを克服する契機に逆利用したいと思う。

（象徴天皇教）と元号制

—〈壊憲天皇明仁〉その31

天野恵一


三月三〇日は私たち「反天連」も呼びかけ団体の一つとしてつくられた「終わりにしよう天皇制！『代替わり』反対不ツトワーク」の「『代替わり』直前！今からでも「NO」と言おう」集会。主催者側の五人の問題提起をふまえた討論の中で、この間、私たちが積極的に提起し続けてきた〈天皇教〉という概念をめぐても論議がまわった。

この言葉を運動の中に投げ込んだ人間の一人として、ここで最低限の概念規定（説明）をしておきたい。私が〈天皇教〉、より正確には〈象徴天皇教〉という言葉で示したかったのは、戦後の象徴天皇制国家の中にも、大日本帝国憲法下とは違つたかたちの（キチンと「政教分離」を掲げた憲法二〇条をベールにした）、「祭政一致」国家であるということを今こそハッキリさせたからである。

日常的には、表に大きく露出させられることのない「万世一系」の神々につらなる天皇一族の皇室祭祀は、国有地である宮城の中につくられた神殿で、日々、続けられている。マスコミを媒介に、表に日々示されている天皇一族の「顔」は、象徴（人間）天皇制である。しかし裏には神權天皇制（祭政一致国家）が常にはりついている。この二重構造がどうしても大きく露出するプロセスとして、「天皇代替わり」の政治プロセスがある。この戦後の新しい「国家神道」は、「非宗教」のたてまえで神社神道をほほまる」と国家（皇室神道）の内側に抱え込むスタイルで成立した、かつての国家神道（天

皇教）とは違つて、神社神道は民間にかえして、ただ国家の中心に天皇という生身のご本尊をそのまま置き続けるスタイルで成立している（天皇の存在や動きが常に国家神道の活動となるのだ）。でも、戦後憲法の規定に基づく表の顔は、二〇条の厳格な政教分離原則に支えられた「非宗教」の象徴（人間）である。

かつての国家神道は、皇室神道、神社神道（非宗教論）というイデオロギーが支配のイデオロギーであったとすれば、戦後は、神社神道は宗教であるが「皇室神道」は（非宗教）であるというイデオロギーで成立している。この象徴天皇（非宗教）という支配のためのイデオロギーに、正面から戦いを挑む反天皇制運動が、今こそ大衆化されなければならない。私は、そう強く思い続けている。

〈象徴天皇教〉という概念は、象徴（人間）天皇制という表と、神權（現人神）天皇制という裏の顔を、まとめてつかまえるための言葉として提出したつもりである。その二重構造性をトータルに批判する思想視座に立つ規定だ。

四月一日、新元号が発表され、全マスコミあげての顔を、表の象徴（人間）のベールにかぶせて、公然と露出させた戦後の最初の法律である。

憲法学者奥平康弘は、「昭和Xデー」の渦中の論文で、この元号法について「『国家の象徴』である、という内容不明の文言を、打出の小槌みたいに振り回すことによつて、支配体制は天皇にかこつけて、したいと思うことはなんでもできることになるだろう」と批判した。その通りのことが、今、起きているのだ。

私流にいえば、〈元号〉は〈象徴天皇教〉の強力な支配のための装置である。元号NO！の声をこそ上げ続けるしかない。

皇室神道（天皇制）は、安倍政権じかけの（一世一元）元号大騒ぎは、政権の支持ポイントを急上昇させ、支持率五〇%超えなどと聞かされるとひたすらウンザリである。

日に開いた第4回会合の議事概要を公表。菅義偉・官房長官が明仁の退位に伴う4月30日の「退位礼正殿の儀」について、国事行為である「国の儀式」とすることを約1週間前に閣議決定する方針を示し、徳仁が即位する5月1日に行う二つの儀式に関しても、當日に同様の決定を行う考えを表明したと報道。／超党派の「天皇陛下御即位30年奉祝国会議員連盟」が、東京都内で4月10日に開く明仁即位30年の祭典「感謝の集い」の式次第を発表。祝賀コンサートに、松任谷由実やMISIA、フォーケデュオ「ゆず」が出演し、ノーベル医学生理学賞受賞者の山中伸弥・京都大教授や映画監督の北野武らが祝辞を述べ、安倍晋三首相や中西宏明経団連会長ら1800人が参加予定で。元号◆天皇即位のたびに元号を改定する

のは「国民民主権」を基本原理とする憲法の精神に反するとして、長野県弁護士会の山根二郎・弁護士ら3人が、国に差し止めを求めて東京地裁に提訴。

真展「平成の災害と赤十字」を鑑賞。
皇太子一家◆長野県での静養を終え、北
陸新幹線で帰京。

表すると、菅官房長官が閣議で報告。首相が皇居を訪れ、明仁と面会し、新元号選定当日の流れなどについての報告とみられ、東京・元赤坂の東宮御所で徳仁と面会。

の儀式に關しても、當日に同様の決定を行ふ考えを表明したと報道。／超党派の「天皇陛下御即位30年奉祝国會議員連盟」が、東京都内で4月10日に開く明仁即位30年の祭典「感謝の集い」の式次第を発表。祝賀コンサートに、松任谷由実や MISIA、フォーケデュオ「ゆず」が出演する。

明仁 美智子◆JR京都駅から東海道新幹線で帰京。

の英訳本「The Thames and I」が、英國の古文書、古書籍、古文書の古文書

皇居・乾通り◆桜の季節に合わせた春恒
判の星占 乾通りの二段、開き台式。

行う者を表明したと報道/超党派の「天皇陛下御即位30年奉祝国會議員連盟」が、東京都内で4月10日に開く明仁即位30年の祭典「感謝の集い」の式次第を発表。祝賀コンサートに、松任谷由実やMISIA、フォーケデュオ「ゆず」が出演し、ノーベル医学生理学賞受賞者の山中伸弥・京都大教授や映画監督の北野武らが祝辞を述べ、安倍晋三首相や中西宏明経団連会長ら1800人が参加予定で。元号◆天皇即位のたびに元号を改定する明仁、美智子◆東京都港区の日本赤十字社を訪れ、陛下の即位30年を記念した写女性天皇◆政府が1997～2004年

皇への即位を前に、英國の日英親善団体「日本協会」が企画したと報道。元号◆政府が、新元号の選定手続きに関する検討会議（議長・菅義偉・官房長官）を首相官邸で開く。菅官房長官が記者会見で新元号を公表するのは4月1日午前11時半ごろにすると決める。新元号の原案を示す有識者懇談会は午前9時半から始め、約2時間で決定、公表し、安倍晋三首相が正午ごろから会見し、談話ervaを5月の新天皇の出版から再干される。

〔3月31日〕
例の皇居・韓通りの一般公開が始まる。
明仁、美智子◆東京都内にある長女黒田清子宅を訪れ、共に夕食。
皇太子訪韓◆1988年9月に当時の村田良平・外務事務次官（故人）が韓国の大統領李源京・駐日大使に、明仁（当時の皇太子）の速やかな韓国訪問の実現を「期待している」と述べたと、韓国政府の文書に記されていることが分かる。韓国外務省が外交文書を公開。

漢今の「新文學」

「日本の人口の9割が剥ぐ「ナショナルリストの牙」とは？」

非政治性に追い込まれてきた「文化の力」こそ「政治」、習俗や伝統の内部に浸透する「聖性」肯定的世界觀も「宗教」その普遍的的理念性故に戦争とナショナリズムを正当化しかねないのが「憲法」といつた再定義を確認後、明仁の「おことば」に潜む問題性を次のように分析した。

要性の主張に当たる」「象徴としての天皇像を模索する道は果てしなく遠い」とは『国事行為者』と『世襲の神道祭司』との二つの機能間での苦悩表明。戦後の『国事行為』の『軽さ』が、『文化』領域に浸透するような戦略を取らせ、習俗に繋がる神道的伝統と『日本文化』を『宗教

いう認識に辿り着き、「日本人」というアイデンティティを再生産するための信仰＝イデオロギー装置である天皇制は、移民労働者の増加・文化的多様性への反発をバネに世界を席巻する極右の反近代主義（個人主義や普遍的の人権の否定）、異性愛家族主義、家父長制、外来種排除など

三月二日、複数の集会が重なり参加規模が心配された「日の丸・君が代」の強制を跳ね返す神奈川集会とデモも、六〇名弱の集会参加者を得て、講師小倉利丸さんの音頭で、「平和」「戦争」「憲法」「政治」「宗教」の再定義を踏まえた天皇制再考を試みた。

「皇室と共に平和な日本」の強調は戦時であることを否定する」「政治に言及できないが故に語れない天皇の立場」が非政治的であることを民衆の道徳・美德に押し上げた」「島国で育てた独自文化をグローバル化の中で外に開く」とは、資本の進出と自衛隊の海外派兵によるナショナル・アイデンティティ確立の必

として機能させ、二つの機能を重ね持つ構造として憲法に組み込まれた象徴天皇制の政教分離は不可能だ」と。天皇による「布教」によって日本人の人口の九割が信仰して成り立つ「宗教」が、暗黙の偏見を持つ「日本文化」「日本人」という選民思想であり、「日本文化」非尊重の非「日本人」へ剥ぎだす牙なのだと

伝統的・旧来環境保全的な価値観と同質なものとして、それへの対応を我々も迫られていることを思い知らされた集会であつた。

(大友深雪／神奈川の会)

「皇族出席の追悼式典」・一斉黙 祷反対!

東海第二原発を止めること。新天皇のはじめての茨城国体反対、五月一日を反奉祝メーデーとして闘おうと訴えた。

「終わりにしよう天皇制！「代替わり」

福島原発事故から八年の三月一日、政府は今年も「四時半から国立劇場で「東日本大震災八周年追悼式」を秋篠宮出席のもと行つた。官公庁や学校、企業などへ「弔旗掲揚、一斉黙祷」の指示を出し、首相談話で全「国民」に「四時四六分黙祷を要請した。

私たちも今年も「政府・東電・電力資本の責任を隠べいし原発を推進する「皇族出席の追悼式典」・一斉黙祷反対！今こそ被害者・労働者と連帯し、加害責任の追及、原発廃止を！3・11を反原発と責任追及の日に」の集会・デモを3・11行動実行委主催で取り組んだ。

集会は、日比谷図書文化館で一二時から三四人が参加した。主催者の基調報告「フクシマ」は被災地・被害者、被ばく労働者切り捨てが進む今こそ、政府、東電をはじめとする電力資本の責任を追及し、皇族出席の原発推進・国家責任回避の「追悼式典」、一斉黙祷を許さず、「3・11」反原発と責任追及の日にしていこうと訴えた。

講演は、茨城の藤田康元さん（戦時下の現在を考える講座）が「原発・国体・不安定労働（茨城の現場から」と題して行つた。東電原発事故は収束していないこと、政府が事故原因究明を放棄し、被害者・避難者も避難しなかつた人も見捨てた。問題提起者は、高橋寿臣（反天

福島原発事故から八年の三月一日、反対ネットワーク、「オリンピック災害おことわり連絡会からの連帯アピール」と「ゴーウエスト」の運動をしている園さんから連帯メッセージをうけた。集会後日比谷公園霞門からデモに出発し、「式典反対！」「黙祷させるな」とシュプレヒコールをあげ、経産省、関西電力などを通り、一四時四六分東電本社への大きな抗議・要請文を渡し、「東電の責任を追及するぞ」などのシュプレヒコールをたたき付けデモを貫徹した。3・11に反原発と責任追及の声をあげることの重要性を再度確信した。

〔野村／反戦反天皇制労働者ネットワーク〕
辻子さんは、政教分離訴訟の流れと、大嘗祭の儀式内容について、写真などを提示しながら説明。北野は、二〇〇〇年代前半に出てきた「無宗教の国立戦没者追悼施設」をめぐる動きから、非宗教的な装いを持つ「国家宗教」について報告した。天野は、このかん「天皇教」という用語を積極的に使うようになつたこと、戦後国家は「非宗教国家」というのが建

〔平成〕代替わりの政治を問う連続講座。第九回をもつてとりあえず一区切りをつけ、今後は第二期として、秋にかけて現実に行われていく「代替わり儀式」を射程に入れてテーマ設定することになつた（らしい）。三月一四日、ピープルズ・プラン研究所会議室で、その一回目、「即位・大嘗祭」儀礼と政教分離との関係を問い合わせ直す「天皇教」と戦後憲法」が行なうこととはかなわないが、完成したら、われた。問題提起者は、高橋寿臣（反天

連OB）、辻子実（安倍靖国参拝違憲訴訟の会・東京）、反天連の北野誉と天野恵の四人。

「天皇「代替わり」直前！今からでも「NO」と言おう

高橋さんは、反天連の源流のひとつとみなされた靖国問題研究会の、八〇年代初頭からの活動をふりかえった。七〇年代に天皇制の突出という状況がある中で、天皇のための死者を祀る靖国神社の問題をあらためて学ぶ必要性を感じ、年に二、三回の靖国天皇制問題集会を開催した。反天連に合流していく中で、八五年の中曾根公式参拝を闘つた。天皇の儀式の宗教性が、日本人の曖昧な宗教意識と結びついて天皇制を容認する「国民意識」を支えていると指摘した。

辻子さんは、政教分離訴訟の流れと、大嘗祭の儀式内容について、写真などを提示しながら説明。北野は、二〇〇〇年代前半に出てきた「無宗教の国立戦没者追悼施設」をめぐる動きから、非宗教的な装いを持つ「国家宗教」について報告した。天野は、このかん「天皇教」という用語を積極的に使うようになつたこと、戦後国家は「非宗教国家」というのが建

〔米国と天皇〕井上森さん（立川自衛隊監視テント村）から。用意されたレジュメとは全く別に、わかりやすくすぐりも入ったスライドショーとして米国と天皇の関係がまとめられていて感嘆。次に「あとつき問題・女性と天皇」、桜井大子さん（女性と天皇制研究会）から。高貴と持ち上げられつつも、野次馬的な関心の対象とされ、性的いやがらせそのもの質問にさらされることが当然視されていることの問題性を入り口にして皇位繼承問題が語られた。次に「くらしと天皇」、京極紀子さん（日の丸・君が代）の法制化と強制に反対する神奈川の会）から。

「代替わり」に祝意を強制される社会の具體例が語られた。相模原は市議選に在特会が政党を作つて立候補したため、その抗議行動の渦中での報告である。最後に「ヘイトと天皇」、宮崎一さん（差別・排外主義に反対する連絡会）から。韓国国会議長の天皇への謝罪要求発言を入り口に戦前の軍事天皇制と戦後の象徴天皇制という区別は日本国内のみに通用する論理であること、今日の排外主義は植民地侵略を担つた兵士が帰国して国内に広げたものであることが語られた。

発題の後、おっちゃんズの「元号やめよう」「天皇制はいらないよ」が歌われ、通常設けるアピールタイムすらなく会場内で議論も交わされた。

【学習会報告】

河原宏「日本人の「戦争」」

（築地書館、一九九五年）

今回の政治（思想）史研究者・河原宏の「日本人の「戦争」——古典と死生間に」（一九九五年築地書館）（二〇一一年に「IV アジアへの共感と連帯」「V 壊の系譜——アジア主義の制度化をぐつて」の二つの章は削除され、講談社学術文庫に収められている）は、かなり特異な本であった。

「あの戦争を実感として取りあげて人が生きる上の哀歎は、何時でも何処も変わらない」（人間には、死に直面

論が続けられ、きつちり二時間で集会は閉められた。

さあ、いよいよ次は反天ウイークだ！
(加藤／戦時下の現在を問う講座)

● 安倍改憲と憲法9条 戦争（場）の実態から〈絶対平和主義〉理念を考える
● 討論集会・改憲—戦争・治安国家と今、どう闘うのか

3月7日（木）●12・12靖国抗議見せしめ弾圧第1回公判

3月10日（日）●東電本店合同抗議

古典と死生の間に

●老朽・被災原発（東海第二）動かすな！
日本原電抗議行動

3月11日（月）●政府・東電・電力独占の責任を隠べいし、原発を推進する「皇族の追悼式典」・一斉黙祷反対！ 3
出席の追悼式典

3月16日（土）●救援連絡センター定期総会
11行動（集会報告参照）

3月17日（日）●北部労働者共同闘争会議
3月19日（火）●12・12靖国抗議見せしめ弾圧第二回公判

3月21日（木）●さよなら原発集会

3月22日（金）●東電の労災責任を問う

3月24日（日）●「平成」代替わりの政治を問う
連続講座「即位・大嘗祭」

儀礼と政教分離との関係を問い合わせる直す（集会報告参照）

3月30日（土）●天皇「代替わり」直前！
今からでも、'NO.'と言おう集会（集会報告参照）

3月31日（日）●おことわリンク学習集会 東京五輪施設建設と外国人労働者

集合情報 INFORMATION

4月12日（金）●マイナンバー制度の拡大を狙つ「3法案」に反対する院内集会 12時～衆議院第2議員会館第1会議室（地下鉄国会議事堂駅ほか）／主催：共通番号いらないネット（080-5052-0270）
●宮崎）

●宮古島からのSOS

たが、二つの章が欠落している文庫で読んできた参加者には、レポート（説明）がしにくかつた。ゆえにこの削除は問題ナシとする作者の意図（文庫版あとがき）は、理解しかねた。

この方法そのものに拒否感をあらわにする参加者もいたが、私は少し「やうい」ものを感じないわけではなかつたが、わりとストンと胸に落ちる方法であり展開であった。

次回は四月二三日（火）、原武史の『平成の終焉』（岩波新書）を読む。

（天野恵一）

- 18時30分／国分寺労政会館第3会議室（JR国分寺駅）／主催・横田行動実行委員会（042-592-3806立川自衛隊監視テント村ほか）
- 4月16日（火）●【国民体育大会の研究】
19時／（つくば市立吾妻交流センター）
（TXつくば駅ほか）／戦時下の現在を考える講座（090-8441-1457加藤）
- 4月19日（金）●【天皇代替わりと政教分離】
18時30分／酒田芳人／在日韓国YMCA・3F（JR水道橋駅ほか）／主催・平和の灯を！ヤスクニの闇へ キャンドル行動実行委員会（03-3359-2841）
- 韓国国會議長発言「天皇は謝罪し、天皇制をやめる」
- 4月20日（土）●【じこが問題！天皇代替り】
14時／コミュニティカフェPao（遠州鉄道八幡駅ほか）／桜井大子／主催・人権平和・浜松
- 4月21日（日）●【天皇の植民地支配責任】
14時／WAMオーピンスベース（地下鉄早稲田駅ほか）／山田朗／主催・女たちの戦争と平和資料館（03-3202-4633）
- 4月24日（水）●【警視庁機動隊の沖縄への派遣は違法 住民訴訟証人尋問（三回目）】
14時／東京地方裁判所103号法廷（地下鉄霞ヶ関駅ほか）
- 4月26日（金）●【運動史とは何か？】
4月27日（土）●【反天WEEK】アキヒト退位・ナルヒト即位!?今こそ問い合わせ！天皇制
- 4月28日（日）●【反天WEEK】沖縄デモ集会
17時45分開場／文京区民センター2A（地下鉄春日駅ほか）／天野恵一／主催・終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク（090-3438-0263）
- 4月29日（月）●【反天WEEK】反「昭和の日」立川デモ
13時15分開始・14時デモ出発／緑町公園（JR立川駅）／主催・終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク
- 5月1日（日）●【改憲・天皇即位反対！非正規差別撤廃！闘うメーテーの復権】
13時15分／15時20分デモ出発／日比谷図書文化館（地下鉄霞ヶ関駅ほか）／鈴木裕子／主催・2019反天皇制メーデー労働者行動（準）（03-3863-2433）
- 5月2日（火）●【反天WEEK】新天皇いらない銀座デモ
16時／17時デモ出発／ニューア新橋ビル地下ホール（JR新橋駅ほか）／主催・終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク
- 5月3日（金）●【5・3憲法集会】
11時／有明東京臨海防災公園（ゆりかもめ有明駅ほか）／主催・同実行委員会（03-5280-7157ほか）
- 5月8日（水）●【即位・大嘗祭違憲訴訟（国賠分）】
14時30分／東京地方裁判所103号
- 17時開場／ピープルズ・プラン研究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／加藤一夫、天野恵一ほか／主催・戦後研究会+「社会運動史研究1」編者一同
- 4月27日（土）●【反天WEEK】退位で終わろう天皇制！新宿大アピール
16時30分／新宿東口アルタ前広場（JRほか新宿駅ほか）／主催・終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク
- 4月30日（火）●【反天WEEK】退位で終わろう天皇制！新宿大アピール
16時30分／新宿東口アルタ前広場（JRほか新宿駅ほか）／主催・終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク
- 5月1日（日）●【改憲・天皇即位反対！非正規差別撤廃！闘うメーテーの復権】
13時開場／日本キリスト教会館4F（地下鉄早稲田駅ほか）／中嶋啓明、酒井芳人ほか／呼びかけ・即位・大嘗祭違憲訴訟の会・東京、ノー・ハプサ（連絡先・sokudai@mail.zhitishi.net）
- 5月24日（金）●【第32回政教分離訴訟全国交流集会】
13時15分開場／武蔵大学1号館2F・1203教室（西武池袋線江古田駅）／倉澤治雄／主催・「オリンピック災害」おことわり連絡会（info@2020okotowainfo）
- 5月9日（木）●【南京大虐殺・靖国に抗議した香港陣隊を許すな！集会】
18時30分開場／文京シビックセンター・シルバーホール（地下鉄後楽園駅ほか）／田中宏、一瀬敬一郎、和仁廉夫／主催・12・12靖国抗議見しめ弾圧を許さない会（miseshime@protonmail.com）
- 5月24日（金）●【第32回政教分離訴訟全国交流集会】
13時開場／日本キリスト教会館4F（地下鉄早稲田駅ほか）／中嶋啓明、酒井芳人ほか／呼びかけ・即位・大嘗祭違憲訴訟の会・東京、ノー・ハプサ（連絡先・sokudai@mail.zhitishi.net）
- 5月25日（土）●【オリハピックと放射能「復興五輪」という欺瞞】
13時15分開場／武蔵大学1号館2F・1203教室（西武池袋線江古田駅）／倉澤治雄／主催・「オリンピック災害」おことわり連絡会（info@2020okotowainfo）
- 法廷（地下鉄霞ヶ関駅ほか）
5月9日（木）●【南京大虐殺・靖国に抗議した香港陣隊を許すな！集会】
18時30分開場／文京シビックセンター・シルバーホール（地下鉄後楽園駅ほか）／田中宏、一瀬敬一郎、和仁廉夫／主催・12・12靖国抗議見しめ弾圧を許さない会（miseshime@protonmail.com）
- 5月24日（金）●【第32回政教分離訴訟全国交流集会】
13時開場／日本キリスト教会館4F（地下鉄早稲田駅ほか）／中嶋啓明、酒井芳人ほか／呼びかけ・即位・大嘗祭違憲訴訟の会・東京、ノー・ハプサ（連絡先・sokudai@mail.zhitishi.net）
- 5月25日（土）●【オリハピックと放射能「復興五輪」という欺瞞】
13時15分開場／武蔵大学1号館2F・1203教室（西武池袋線江古田駅）／倉澤治雄／主催・「オリンピック災害」おことわり連絡会（info@2020okotowainfo）
- 【事務局OBの某高橋が突然逝つてしまつた。いかにも某高橋として。（木菟）】
●【反天運動と、スキー・水泳、温泉などが境目なしの人。まさか此岸彼岸も境目がないとは。（鷺鷺）】
●【お通夜には古いメンバーがみんな来たけどね。「んなこと」でなければ……。（鷺鷺）】
●【本当にクタクタ、みなさんお体を大切に。（熊）】

